

算数科学習指導案

単元名「たしざん」

平成30年10月10日(水) 第2校時 1年松組教室

1年松組 指導者

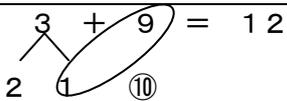
I 授業改善の視点

ブロックや100珠そろばんを使って、加数分解、被加数分解の2つの計算方法を比べる活動をすれば、被加数分解の方がやりやすい場合もあることに気づき、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、加数でも被加数でも、10のまとまりを作ればできるということの理解の定着が図れるだろう。

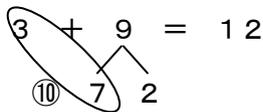
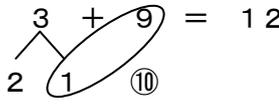
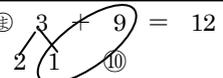
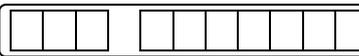
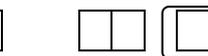
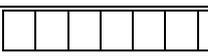
II 本時の学習 6/13

<ねらい>

・1位数どうしの繰り上がりのあるたし算で、被加数を分解して計算する方法があることがわかる。

学習活動	指導上の留意点
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを設定する。(5分)</p> <p>問題 あかみは、あわせて なんこですか。けいさんの しかたを かんがえましょう。</p> <p>T: どんな式になるかな。 S: 3+9</p> <p><めあて> 9をたすときは、どのようにけいさんすれば いいのかな。</p>	<p>・9にたすとき、8にたすとき、7にたすときすべてのときに、10のまとまりになるように後ろの数をさくらんぼにして計算したことを、振り返りながら、10のまとまりになぜするのかを再確認する。</p> <p>・問題をとらえやすいように、テレビに問題文と写真を掲示する。</p> <p>・答えが10より大きくなるだろうことを確認し、解決の見通しを持たせる。</p>
<p>2 個別に課題を追求する。(5分)</p> <p>T: 答えが10より大きくなりそうなとき、どうやって計算していたかな。 S: 10のまとまりをつくる。さくらんぼ計算をする。 S: 前の数をさくらんぼにしたいけどいいのかな。</p> <p>3 追究したことを全体で比較・検討する。(20分)</p> <p>T: どうやって計算したか、隣の人に話しましょう。</p> <p>T: みんなの前で発表してくれる人はいますか。 S: 3はあと7で10だから、9を7と2に分けて・。 T: 同じようにやった人で、ブロックを動かして説明してくれる人はいますか。 T: 違うやり方の人はいますか。 S: 3を1と2に分けて・・。 T: どうして、3を1と2に分けたの。 T: どちらのやり方がやりやすいかな。</p>	<p>・9+4、8+3、7+4の計算の仕方のカードを提示し、同じように考えればよいことに気付かせる。</p> <p>・10のまとまりやさくらんぼがすぐに思い浮かばない児童には、ブロックや100珠そろばんを操作させながら、考えさせる。</p> <p>・全員が自分の考えを話せるようにペアで、発表させ合う。</p> <p>・話すときの補助になるよう、9+4の計算の仕方カードは掲示しておき、同じように話すよう、促す。</p> <p>・被加数分解、加数分解、両方の考えが出るよう、机間巡視でチェックし、計画的に指名する。</p> <p>・考えを視覚的にわかりやすいように、黒板のブロックを動かしながら説明させる。</p> <p>・3と9は、どちらが10にしやすいか考えさせる。</p> <p>【評価方法】 ④ (発言・ノート) 10のまとまりをつくることに着目して、計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。</p>
<p>4 学習のまとめをする。(5分)</p> <p>まとめ  = 12 うしろの9を10にして、けいさんするとよい。</p> <p>5 同様な問題に取り組む。(5分)</p> <p>6 学習を振り返る。(5分)</p>	<p>・児童の言葉を使いながら、もう一度教師が黒板で、ブロックを動かしながら、説明することで、加数が被加数より大きい場合には、被加数分解で計算するとやりやすいことを確認し、まとめとする。</p> <p><ふりかえり> うしろの数が大きいときは、前の数をさくらんぼにすればやりやすいことが、わかったかな。</p>

III 板書計画

<p>④ 9をたすときは、どのようにけいさんすればいいかな。</p>	<p>10のまとまりをつくる。</p>	<p>さくらんぼけいさんをする。</p>	<p>④ 9をたすとき</p>
<p></p>	<p></p>	<p>④ 3+9=</p>	<p>④  うしろの9を10にしてけいさんするとよい。</p>
<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>